

大和八木 まちづくり 新聞

No.02
2010年
10月号

特定非営利活動法人八木まちづくりネットワーク



NEWS

■ 8/23-25 伝統の賑わい愛宕祭

三百年の伝統を誇る愛宕祭が八月二十三日から二十五日までの三日間八木町愛宕神社周辺で開催され、町内の火難除けと安全を祈り38ヶ所に祠が祀られ、また町内5ヶ所で「造り山」が奉納され子供たちや、見物客を楽しませた。そして子供たちは愛宕祭が終わると、いよいよ本格的に夏休みの宿題にとりかかるようで、これも今も昔も変わらない八木町の伝統の一つであるようです。(2Pに続く)



■ 東京の大学が八木ネットを調査

8月9日に日本女子大の高野由美子准教授の訪問をうけました。3月について2回目で、先生は「歴史的景観を活かすまちづくりと住民の学習活動」や「子ども参加とまちづくり」を研究され

ていて、当NPOが毎年行っている晩成小学校の校外学習の支援について熱心に取材されました。

また、8月20日には早稲田大学理工学研究所の白木里恵子研究員の進展しつつある八木の拠点整備の研究調査に協力しました。早大は昨年、奈良県との連携事業として「初瀬門前町における景観まちづくり推進」にとりくんでおられます。

■ 7/11大和高田でフォーラム

「できることを主体的に取り組むまちづくり」をテーマに大和高田市本町の専立寺本堂で開かれ、シンポジウムや町歩きに約80人が集まり、八木ネットからも参加しました。(県主催、大和高田市本町・市町地区まちづくり協議会共催)

映画「大和川慕情」の上映会のほか、基調講演は近畿大学教授の久隆浩さん。他、県内の4カ所(今井、大和高田、八木、吉野山)の地域の取り組みが報告されました。

今井からは、空き家バンクの取り組み(NPO法人今井まちなみ再生ネットワーク理事長上田琢也)。大和高田市

からは、店舗の歴史のヒアリング調査から作った地域資源のデータベースや寺内町散策マップについて(本町・市町地区まちづくり協議会事務局長の脇屋大樹さん(専立寺副住職))。八木からは、「旧街道の交差点八木も、かつては宝石箱のような町並みだったのに、今では、ごった煮のようなまちになって残念」と報告(八木まちづくり協議会理事の稲上文字子)。吉野町からは、サクラのオフシーズンにシャッター通りと化す問題を紹介(吉野山まちづくり協議会副会長の東利明)。

■ 9/19横大路ウオーク開催

遷都1300年祭の支援事業のひとつとして、9月19日[日]に歴史ウオークを開催しました。

当日は残暑厳しい中のウオークになってしまい、彼岸花の咲く横大路ののんびり歩こうという当初ののもくろみが見事にはずれてしまいました。

桜井市ボランティアガイドの会の会長中谷さんの熱弁にあとおしされたかたちで、三輪の町並みの散策から始まり金屋、慈恩寺をへて横大路を八木札の辻まで無事酷暑の中のウオークを終了しました。

写真↑は桜井と樫原の境にある西国名所図会(1848年刊)にある三輪神社の樹齢300年のケヤキの大木の下でボランティアガイドの説明を受けている参加者の皆さんです。



魅力たっぷり愛宕祭

愛宕さん終わったら宿題せんとまにあわへんよ～

中

南和地域の夏を彩る八木の愛宕祭りは三日間天候に恵まれ近隣地域から大勢の見物客が訪れ町はお祭りムードに包まれた。



愛宕祭は火難避けの神として全国的な信仰を集めている京都の愛宕神社に火伏せと安全を願う祭りであるが、祭りの三日間は八木町内38か所で祠を祀って愛宕神が信仰されている。



鹿

谷勲氏「八木の愛宕祭りと立山」によれば、八木における愛宕講の存在は寛保二年(1742年)から明らかになる。東八木の祠に掛ける愛宕神の掛け軸の裏に「寛保二年壬戌七月七日／和州高市郡南八木村東町／愛宕講中汁物／和州高市郡北八木村東町／為町内安全火

災鎮護造之」と記されている。また町内に愛宕町という町があり(現在は高麗町と合併して高愛町となる)、他の町内が年に一度仮設の祠を組むのに対して、常設の祠を有している。



八木の愛宕祭の「立山」についても以下のように述べられています。8月23、24、25日の3日間の呼び物が「立山」であって、近年では「造り山」とも呼ばれているが、年に一度の趣向の披露に人々は心血を注ぎその手作りの巧妙さと機知に思わず笑みがこぼれ、どれもその時、世相で流行している話題や伝統的な話題を巧みに取り上げ、機械仕掛けの面白さも手伝って人々の関心を誘い、その機知と工夫が人々を感心させる。

柳

町で長年「立山」作りに携わっている方に聞けば、3日間の披露ではあるが、子供を喜ばせたいという思いで続けているといい、その原点は子供の頃に立山を見た感動があるという。



近年の「立山」のテーマを一端を紹介すると、高愛町では「ET&ジュラシックパーク(2001年)」「梅川忠兵衛(2004年)」「(写真)「愛知地球博」、北八木3丁目では2007年、楽天の田中投手と早稲田のハンカチ王子を対戦させる「愛宕球場」(写真↓)、オリンピックで活躍した「荒川静香のイナバウアー」「スパイダーマン」など。

晩成小学校ではアメリカ映画「シュレック」や春日神社の「えべっさんの宝恵かご」、柳町の1987年砂漠の隊商が藤原京に到着する「シルクロード」、1999年「忠臣蔵」「ストップ地球温暖化」、2003年「巖流島の決闘」などがある。



今年も町内五ヵ所で「立山」が奉納され子供たちや見物客を喜ばせた。また子供たちの夏祭りの思い出づくりと、親子で祭りを楽しんでもらおうと地域の晩成小学校では、楽しい、工夫をこらした催し物が数多く実施され大勢の親子が祭りを楽しんだ。また愛宕神社がある八木春日神社の境内に於いても、子供たちが好きな催し物を出して祭りに趣向をこらしている。勿論祭りにつきものの露天商も数多く出て愛宕祭は魅力は一杯である。

晩成小学校五年生 Mさん

愛宕祭は3日間じゃなくて5日間にふやしてほしい。あたごまつりはたのしい。広さをもっと増やし、明るくして、学校前みたいに、やりたい種類も多くしてくれたらうれしい。たのしい、にぎやかな、あたごまつりにしてほしい。

今年の愛宕祭

八木「立山」めぐり

◆柳町 平城遷都1300年



今回は遷都1300年祭を盛り上げる記念の立山です。皆さんと一緒に30数年造り続けてきました。立山の3要素である、動・静(人形)・音のうち、やはり毎回苦労し難いのが、動きの工夫です。しかしそれが造り手のやりがいでもあります。(製作者松山さん)

◆高愛町 坂本龍馬黒船との遭遇



立山のテーマは半年前に決めました。高愛町では数年に一度5、6人のグループで担当することになっています。長い間続けてきた行事ということもあり、得意分野で分担して制作しました。作り手が不足する中、なんとか続けていきたいと思っています。

◆関大 2010FIFAワールドカップ



(橿原市指定文化財 旧平田家)
初めて「立山」を作ったので、最初の思いよりは段取りがうまくいかなかった

た。最後は人海戦術で切り抜けたが、もう少し段取りを効率化してやればよかった、と反省。仲間とはうまくやれたと思う。特に小さな子供達が熱心に見てくれて、中には30分ぐらいじっと見てくれた子もいて、嬉しかった。また、最初は動かすことも考えていたが、それもできず、残念。今、思うと、やってよかったと思う、楽しかった。

(今年は、町の人たちによる立山に混じって、関大生を中心とした立山応援隊が編成され、この立山を作ってくださいました。)

◆八木まち創り会 八木の町3Dシアター



(春日神社)

「八木の町を知ってほしい」との思いから「札の辻」をターゲットにして「フォトモ」と「ツギラマ」という手法を使いインパクトのある写真展示にしました。作ってみると予想以上に難しかったです。八木の町を知る方が増えれば幸いです。(製作者松井さん)



◆北八木町 四神降臨

今年、驚いたことはこのテーマについて、大人より、子供のほうがよく知っていたということです。また、動力の仕掛けを子供に見せることも楽しみで作っています。とにかく今年の暑さには、正直参りました。

兵庫県丹波市氷上町

成松の愛宕祭訪問

8月23日(月)NPO 法人まちづくりネットワークのメンバー4名で成松の愛宕祭を見学してきました。愛宕祭実行委員会の宮崎会長、「造り物」保存会の永廣会長に案内、説明頂き丹波市指定無形民俗文化財の「造り物」を見学してきました。



祭りの開始は愛宕神社に愛宕祭実行委員会・造り山保存会・区長会・市他、役員約50名が2時間以上かけて火難避けと祭りの無事を祈る神事からでした。



この後、町内の「造り物」(15か所)を見て回り、「造り物」の当番をしている方から、「造り物」は陶器や祝儀物、植物、金属など一つの素材(成松の「造り物」の伝統))で、仕上がり、話題性等、工夫をこらして制作していますと教えて頂きました。「造り物」保存会の永廣会長からは造り手の減少と高齢化で「造り物」制作は厳しい状況ではあるが、「造り物」の伝統文化の価値を継承して保存育成を図るために制作補助金、人気投票の制度など取り入れているとの事でした。

八木のいろいろ情報



平城遷都1300年祭 県民活動支援事業 歴史の道を歩く〈横大路ウォーク〉

奈良盆地を東西に結ぶ道、それが「横大路」です。近世には「伊勢街道」と呼ばれ「お伊勢参り」で大変賑わった街道です。

今も街道筋にはそれぞれの時代の歴史資産が残っています。そんな歴史の道をのんびりと、歩いてみたいと思います。

〈横大路ウォーク 2〉

上ノ太子から竹内峠を経て長尾神社まで(約11km、健脚の方はさらに八木札の辻まで約9km歩きます。)

平成22年10月16日(土)

受付:午前9時～9時30分

(小雨決行)

集合場所:近鉄南大阪線上ノ太子駅

定員:30名

参加費:300円(資料・お茶)

※弁当は各自持参して下さい。

申し込み・問い合わせ

NPO 法人八木まちづくりネットワーク

平田(0744-22-2010)

河合(0744-23-8180)まで

八木歴史講演会

吉田松陰が八木へ来た理由

講師 谷山正道

(天理大学文学部教授)

演題 「幕末の大和」

平成22年11月28日(日)

午後1時受付開始～3時30分

場所 橿原文化会館 2F大会議室
人数 50名 入場無料(先着順・申し込み不要)

主催:NPO法人八木まちづくりネットワーク

(問い合わせ 0744-22-2010平田まで)

激動の幕末から明治維新、政治の中心地からすこし離れた大和八木にあって、時代を先駆した志士吉田松陰や、頼山陽に大きな影響を与えた八木の大儒学者谷三山との師弟交流と時代背景を交えた講演会を開催します。

歴史ファンにはまたとない機会、是非お越しください。

平城京にちなんだはり絵作品展

大極殿・朱雀門・遣唐使・鹿等の貼り絵

平成22年11月19日(金)～20日(土)

午前10時～午後3時

橿原文化会館2F展示室

入場無料

朝市(野菜・花等)

平成22年11月20日(土)

午前10時～午後3時

橿原文化会館前 広場

古代衣装撮影会

平成22年11月19日(金)～20日(土)

午後1時～3時

古代衣装貸出し 無料

橿原文化会館前広場か2F展示室

撮影は各自でお願いします。

以上、遷都1300年祭関連事業



住まい・まちづくり担い手事業

連続講演会1

平成22年11月7日(日)

午後1時～2時30分

場所:八木地区公民館

入場無料

講師 増井正哉

(奈良女子大学奈良女子大学教授。専門は歴史遺産の保存・活用、建築史。著書に『まち祇園祭すまい』)

祭りと町並みについて語ってもらいます。

また、今年橿原市指定文化財になり、改修設計中の札の辻旧平田家の調査や活用案についての解説も楽しみます。

このとき、八木の町の模型のお披露目もあります。

連続講演会2

平成22年11月21日(日)

午後2時～4時

場所:八木地区公民館

入場無料

講師 小林郁雄

(神戸山手女子大学教授、まちづくり(株)コー・プラン アドバイザー。地域計画、市街地整備から住民主体のまちづくりまで)

町と暮らし、整備手法について語ってもらいます。

また鳴海邦碩(関西大学客員教授、大阪大学名誉教授)による、路地の町の事例映像と意見交換も予定。

連続講演会はどなたでも参加していただけます。

一般社団法人
住まい・まちづくり担い手支援機構

この新聞は、一般社団法人・まちづくり担い手支援機構の「住まい・まちづくり担い手事業」のご支援により刊行しております。

特定非営利活動法人

八木まちづくりネットワーク

奈良県橿原市北八木町2-1-5

電話・FAX: 0744-(37)0804

電子メール: info@yagi-net.jp

HP: http://www.yagi-net.jp/